

# 国 語

## 注 意

1. 問題は全部で12ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. **HB**の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	2	3	4	5	6	7	8	9	0
---	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

— 次の文章は、小林秀雄「信樂大壺」の一節である。よく読んで後の問に答えよ。

例えば、今、誰かが私に、こんな質問をするとする。君は**ずいぶん**いろんな焼き物を見て来たようだが、どんな焼き物が一番好きか、と。なるほど、質問はひどく曖昧だが、そんなことは気にかけず、私は、ほとんど本能的に、自分が毎日晩酌で使っている徳利とか盃とかの**うちから**選ぶほうとするだろう。これでは、焼き物が好きなのだか、酒が好きなのだか解らぬということにもなりそうだが、本当を言えば、そんなものかも知れないので、私は、そんな気持ちで、この徳利が一番好きだと言っているらしい。<sup>1</sup>一番好きな焼き物は、私が一番見てはいないものだ。

焼き物は、見るものではない、使うものだ。これは解り切った話だが、私の経験では、解り切った話を合点するには、手間がかかった。いい盃だと思つて買つて来る。呑んでいるうちに、いやになる。今度は、大丈夫だろうと思つて買つて来る。なるほど、呑んでいても欠点は現れて来ない。だが、何となく親しめない。そのうちに、誰かにやつてしまう。そんなことを、長い間、くり返してきた。これは単に私個人の趣味の問題には止まるまい。酒好きの焼き物好きが、みんなやつていることである。実に沢山の人々が、実に長い間、呑んでいるのだから判然としない、そういう経験を重ねてきた。焼き物の美しさは、基本的には、この種の経験の上に立っている、と私は考えている。

私は、茶事には不案内であるし、無関心でもある。しかし、<sup>2</sup>万事につけ、人の意識とか関心とかいうものの力は、**当人の思うほど強いものではない**。やはり、**伝統の沈黙の力は、いつも働いているものだ**。私の母親は、生前、茶道の師匠をしていた。私が、これにどんなに無関心だったとしても、母親の思い出は、私の心のなかで、死なないうようなもので、今日、どんなに当世風な焼き物の鑑賞の仕方を、意識的に試みてみても、私たちが、長い間育てて来た焼き物の美しさを扱う態度は、日本の焼き物好きの心のなかで、死にはしない。言うまでもなく、この態度は、茶道によつて養われて来た。茶道の形式化や **a** を言うのは易しいし、つまらぬことだ。それより、茶道が実行してきた信条、器物を使う道が即ち器物の美しさを知る道であるという信条、これには、まことに自然な動かし難いものがあることを考える方が興味がある。

恐らく、そこには、誰も究めたことのない美学がある。と言うより、言葉なく、理論なく、焼き物の姿が人間に要請している美学に、人間が **b** し、これを知らぬうちに実践して来たと言った方がいいかも知れない。

例えば、この茶碗は、味がいいとか、味が悪いとか言う。焼き物好きには、この言葉が、はつきりとある具体的な感覚を指している以上、実に解り切った易しい言葉だが、さてその具体的な感覚とは、どういう性質のものかとなれば、言葉に窮するであらう。しかし、これが、どうやら、焼き物を使ってみているうちに育つて来るある感覚であることは、間違いないように思われる。焼き物好きは、いつの間にか、触覚に基づいて視力を働かすようになっていく。陳列棚の焼き物も、ガラス越しに、触るようAに見ているものだ。私は、絵を見ている時など、よくこれに気が付くことがある。特に、極端にこちらの視覚を要求しているような絵に出会う時、焼き物に親しんで来て、私が知らぬうちに育成してきた自分の視力の性質、自分の謂いわば極端に触覚的な視力に、突然気づいて驚くことがよくある。

彫刻は、眼前に実体があるという点で、直接な実体感を基本として、これに接しなければならぬという点で、絵という外観の世界とは比較にならぬほど焼き物に近いものだ。しかし、彫刻の実体感は、焼き物の実体感のように純粋な形式をとることはむつかしい。彫刻は、やはり、何を表現しているかという質問、私たちの言葉に訴える質問を蔵しているからだ。 **c**、焼

き物は、まことに気が楽だ。何にも表現していない。私たちは焼き物を前にして、純粹な実体感のうちに、言葉を一番挑発し難い触感の世界に **d** することが出来るようだ。触覚という感覚は、私の感覚のうちで一番基本的な感覚に違いないという気さえ起こさせる。

この焼き物の持つ、言わば私たちの言葉の世界への全くの無関心が、私たちを焼き物の使用に誘うのではあるまいか。焼き物の「味」という言葉を、私たちが思いついた所以ゆえんも、その辺りの事情から来ているのではあるまいか。私たちは、焼き物を味わう。焼き物が要求している私たちの視覚とは、私たちの触覚から分化したものに過ぎない。焼き物に対しては、見るということ5は二の次になっていると言えようし、焼き物の現す線や色彩は、味わいのうちに溶け込んでいるとも言えよう。焼き物の絵付けの面白さなどは、やがて飽きるものである。

私は壺が好きだ。もし焼き物に心があるなら、盃も徳利も皿も鉢も、みんな壺になって安定したい、安定したいと願っているようにさえ感じられる。古信樂こしがらの壺は、特に好きだ。その「けしき」が、比類ないからだ。「けしき」という言葉も面白い言葉である。これも、実体感、あるいは材質感のなかに溶けこんだ一種Bのシキカンを指して言うものだ。信樂に行った時、白い土と緑の赤松の林を見ていて、ここで山火事があつたら、灰かぶりのとんでもない信樂の大壺が出来るかも知れないという空想が、極めて自然に、私の心に現れた。

〔注〕 古信樂……現在の滋賀県甲賀市信樂町一帯で焼かれた陶器を信樂と呼び、古信樂はその古陶を指す。

問一 傍線部1「一番好きな焼き物は、私が一番見てはいないものだ」とあるが、その理由として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は1。

① 筆者は一番好きな徳利や盃を毎日晩酌で使っており、今まで十分に何度も時間をかけて見つめて来たので、ある意味ではもう見飽きてしまっているから。

② 筆者は一番好きな徳利や盃を毎日晩酌で使っているが、それらの焼き物は触感によって選ばれており、使用するときも、視覚で見ようとはしていないから。

③ 筆者は一番美しい徳利や盃を、美しいゆえに毎日晩酌で使ってきており、それらの焼き物は改めて見なくても、美しさが目に浮かぶほどになっているから。

④ 筆者は一番好きな徳利や盃を毎日晩酌で使っているが、焼き物の美しさを鑑賞するときと、実際に使用するときとは別であり、使用は鑑賞から離れて行っているから。

⑤ 筆者は一番好きな徳利や盃を毎日晩酌で使っているが、それは見て楽しむためではなく、あくまでも舌を触れさせ、舌だけで美を楽しむようになっているから。

問二 傍線部「伝統の沈黙の力は、いつも働いているものだ」とはどういうことか。説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 2。

① もし焼き物に心があるなら、「盃も徳利も皿も鉢も、みんな壺になって安定したい」と考えており、そこにこそ一般的でありまた伝統的な沈黙の力が働いていると述べている。

② 「酒好きの焼き物好き」が、いつも酒を呑んでいるのだから器を見ているのだから判然としない、そういう酔った経験を重ねてきたところに、実は伝統的な一般性があることを述べている。

③ 「焼き物を使ってみているうちに育つて来るある感覚」こそ伝統の力であり、焼き物好きは、どんなときでも触覚を働かせなければならず、視覚を捨てるべきであることを述べている。

④ 彫刻は、眼前に実体があるという点で、直接的な実体感を基本としてこれに接しなければならず、また音もしないので、極めて焼き物に近い伝統の力を有していることを述べている。

⑤ それは茶道によって培われてきた力であり、すなわち「器物を使う道が即ち器物の美しさを知る道である」という信条を、理屈ではなく、知らぬうちに自分が実践してきたということ述べている。

問三 空欄 a に入る語句として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 3。

① 脛落                      ② 墜落                      ③ 惰落                      ④ 墮落                      ⑤ 駄落

問四 空欄 b に入る語句として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 4。

① 引率                      ② 反逆                      ③ 随順                      ④ 容認                      ⑤ 誘導

問五 傍線部3「ある具体的な感覚」とはどういうことか。説明として、最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄は 5。

- ① 焼き物の実体感のように純粋な形式をとる彫刻に、手で触れた時のような感覚。
- ② 酒好きの人間が、呑んでいるのだから器を見ているのだから判然としないような酔った感覚。
- ③ 焼き物を使っているうちに養われてくる触覚に基づいて、美を感じとるような感覚。
- ④ 触覚というものは、誰でも感覚のうちで一番基本的な感覚であると確信するような感覚。
- ⑤ 古信楽の壺の表現しがたい「けしき」の魅力が浮かび上がらせてくれる感覚。

問六 二重傍線部A「陳列」の読みをひらがなで記せ。問六は解答用紙(その1)を使用。

問七 傍線部4「純粋な形式」とあるが、このとき筆者が逆に「純粋ではない」と考えているのは、どのような形式か。説明として、

最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄は 6。

- ① ただ見ているもまことに気が楽であり、問も持たず、何にも表現していない形式。
- ② 何を表現しているのかという質問、私たちの言葉に訴えるような質問を蔵している形式。
- ③ 見ている者を、言葉が一番挑発し難い触感の世界に誘い込んでしまう形式。
- ④ 焼き物が要求している視覚とは、触覚から分化したものに過ぎないと主張する形式。
- ⑤ 焼き物の絵付けの面白さなどは、やがて飽きるものであり、汚れていると主張する形式。

問八 空欄 c に入る語句として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 7。

- ① そこへ行く
- ② それにもかかわらず
- ③ それほどまでに
- ④ そうではあるが
- ⑤ それなりに

問九 空欄 d に入る語句として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 8。

- ① 樂觀
- ② 難儀
- ③ 安住
- ④ 登攀
- ⑤ 治癒

問十 傍線部5「焼き物の持つ、言わば私たちの言葉の世界への全くの無関心」とはどういうことか。説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 9。

- ① 焼き物の現す線や色彩は、味わいのうちに溶け込んでいるので、線や色彩はもともと必要のないものである。
- ② 筆者の母親は、生前、茶道の師匠をしていたが、焼物について言葉で語ったことは一度もなかったのである。
- ③ 今日、どんなに当世風な焼き物の鑑賞の仕方を意識的に試みても、古い焼き物はそれに関心を示しはしない。
- ④ 焼き物は、言葉に訴えるようなことは何も表現しておらず、私たちは言葉ではない触覚によつて美を感じとる。
- ⑤ 滋賀県の信楽でもし山火事があったら、大壺の傑作が出来るかも知れないという空想に、言葉は必要ない。

問十一 二重傍線部B「シキカン」を最適な漢字で記せ。問十一は解答用紙(その1)を使用。

問十二 右の問題文全体を通して筆者が主張していることは何か。それを最も簡潔に表現している一文を、問題文から抜き出すとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 10。

- ① 焼き物は、見るものではない、使うものだ。
- ② 私の母親は、生前、茶道の師匠をしていた。
- ③ 例えば、この茶碗は、味がいいとか、味が悪いとか言う。
- ④ 触覚という感覚は、私の感覚のうちで一番基本的な感覚に違いないという気さえ起こさせる。
- ⑤ 焼き物の絵付けの面白さなどは、やがて飽きるものである。



二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

当世、奢侈<sup>a</sup>・利欲の二道盛んに行はるるに依つて、山林を荒らし、深山幽谷までも分け入りて、大木・大石を伐り出だし、今、飛驒山林・木曾山・熊野山を始めとして、国々の高山・深山、過半<sup>はひやま</sup>兀山<sup>1</sup>となりぬ。高山緑色を装ひ、大樹繁茂して国の富を知るといふ。全く山の A は大木なり。すでに海辺の山に繁茂する時は、諸魚寄り集まり、兀山なる時は漁業もなきといふ。これ山の景色によるなり。今は山の高き A を失ひ、景色を失ひ、国の衰へを見る風情なり。あまつさへこれがために水理を損し、風雨の順を違ひ、また山を洗ひ、土砂を流して川を埋むること甚だし。諸木草繁茂する時は、水気容易に動かず、たとひ霖雨<sup>4</sup>たりとも、まづ草木も冷み入りて一旦に流れず、草木の潤ひ連々に滴り出づる故、山をもたちまちに洗はず、土砂も流れ出でざるなり。今は草木薄くなりて水理偏り、あるいは濁水、あるいは洪水して、国々の海みな昔に替はり、わづか二日三日の雨にもたちまち洪水出で、また一度ごとに土砂を洗ひ出だして川々埋まり、平地よりも川床高くなり、いやましに堤を盛り<sup>5</sup>上ぐるといへども、おひおひに川底高く、洪水多くなりて、なかなか行き届かず、ややもすれば堤を壊して田畑を荒らし、人家を流し、牛馬鶏犬及び水死人多く、別して老年幼稚の多く流死するにいたる。

この難、昔に替はり、近來度々ありて、昔水難なかりし場所も今は水損場となりし所多く、また昔は常に水絶えずして田畑の用水になりし川々も、今は水濁してその用をなさで天水場<sup>\*</sup>となり、古来の上田が悪田に交じ、そののみならず、暴雨の時は俄かに高水出でて田畑を荒損し、永久不毛の地にするといふ。この川上なる所の大木・大石を損じ、水気を保たざる故なり。すべて高き所に樹木ある時は、その下なる田畑乾きて苗秀せず、五穀の実入り悪しきといふ。また近來、雷の鳴動すること低くなりて、そのたびごとに所々に降ること昔に替はりしといふ。これまた高山大木の絶えたる故なり。往昔、雷鳴は深山多く響きて、里はまれにてありしといふ。また近辺に大木ある時は、火災を免るといふ。水火ともに大木にあるなり。もつとも、火の燃ゆるや、木より起こるなり。これ水気ある故に燃ゆるなり。水火ともに含み保つものなり。また上古の世に五風十雨などいへるも、その頃は人情も神の如くにして、殊に山川を犯し木石を荒らさざる故、天氣順道に違はず、水火の循環直なりしといふ。今は山

川荒れ、人情悪く曲がり狂ひて、あるいは富み、あるいは貧に偏りて、悪逆無道なる故、天気もその如く、風雨の順違ひて、あるいは旱<sup>て</sup>り、あるいは降り、晴雨偏り寒暑不順なりといふ。五風十雨の順気の狂ひしは、全く人情の悪くなりし故と、また山谷を荒らして水火の理を違へしゆゑなり。

また土砂を流し川々を埋めたる事は、右の山々の木を伐り、石を切り荒らしたる故なること歴然たり。すでに万治三年、上方<sup>かみかた</sup>筋への御法度に、山城・大和・伊賀辺の国々山々の木の根を掘り付けて、淀川・大和川、砂流れ埋まり候ふ間、向後木<sup>まきうしろ</sup>の根を掘るべからず、その上連々苗木を植ゑ候ふやうにとの御触書<sup>おふれがき</sup>あり。御治世の初めより万治の頃までは、その年間四、五十年を隔つるなり。もはやそのころ山々を荒らし、川々を埋むること始まりしと見ゆ。しかし、いまだ国初<sup>くにはつ</sup>の頃の事ゆゑ、その得失顕は見えしまま、右の通りの御触書も出でしなり。もつとも御制度の国家の大道に通達せし事にて、土砂を洗ひ流さるるを御厭ひなされ、殊に苗木を植ゑ付けて繁茂する事まで教へ給ひし程を知るべし。

(武陽隱士『世事見聞録』による)

【注】 \*水損場 水害でダメージを受けた場所。

\*天水場 水たまり。

\*高水 増水。

\*五風十雨 五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降るの意で、氣候の順調なことをいう。

\*万治三年 西暦一六六〇年。

問一 二重傍線部 a「奢侈」の読みとして最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 11。

- ① きやしや      ② きようじ      ③ きようだ      ④ さた      ⑤ しゃし

問二 おなじく二重傍線部 a「奢侈」について、ほぼ同じ意味の熟語を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 12。

- ① 華美                      ② 觀賞                      ③ 狂騒                      ④ 競奔                      ⑤ 贅沢

問三 傍線部 1「高山緑色を装ひ、大樹繁茂して国の富を知る」とあるが、「高山緑色を装ひ、大樹繁茂して」と「国の富を知る」の間の因果関係として想定されていることがらのうち、問題文の趣旨に合わないのはどれか。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 13。

- ① 海辺の山の麓ではたくさん魚が集まり、漁業も繁栄する。  
② 自然界における水本来のありかたを正しく保つ。  
③ 保水機能により、洪水被害を防止し、耕作地や民家を守る。  
④ 麓の田畑の穀物の成長を促し、生産量を上げる。  
⑤ 落雷の被害から麓の町や村を守る。

問四 空欄 A に入れるのに最適な語を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 14。

- ① 越                              ② 志                              ③ 節                              ④ 徳                              ⑤ 齡

問五 傍線部 2「すでに」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 15。

- ① 以前から                      ② かつて                      ③ かろうじて                      ④ 現に                      ⑤ もしも

問六 傍線部 3「あまつさへ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 16。

- ① 雨水さえ                      ② 加えて                      ③ ただでさえ                      ④ ところで                      ⑤ にもかかわらず

問七 傍線部 4「霖雨」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 17。

- ① 大雨                              ② 霧雨                              ③ 小雨                              ④ 長雨                              ⑤ にわか雨

問八 傍線部 5「盛り上ぐる」の主語(動作主)は何か。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 18。

- ① 川                                      ② 洪水                                      ③ 土砂                                      ④ 人々                                      ⑤ 山

問九 傍線部6「すべて高き所に樹木ある時は、五穀の実入り悪しきといふ」とあるが、この一文は論理展開の上で、どのような意味をもつと考えられるか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は19。

- ① より重要な機能を示すために、前もって山林の副次的な欠点に触れる。
- ② ここまで触れなかった山林の問題点を示し、新たな方向に転換する。
- ③ 落雷・火災などの被害と比較するために、山林のもつ難点を挙げる。
- ④ かつての山林の恩恵が、現在では失われつつあることを示す。
- ⑤ 山林が保水機能をもつ例証として挙げる。

問十 傍線部7「山城・大和・伊賀」とあるが、現在の地名ではそれぞれどこと重なるか。それぞれ後の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は20、21、22。

- |    |      |       |       |       |       |       |
|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 20 | 【山城】 | ① 京都府 | ② 奈良県 | ③ 三重県 | ④ 滋賀県 | ⑤ 兵庫県 |
| 21 | 【大和】 | ① 京都府 | ② 奈良県 | ③ 三重県 | ④ 滋賀県 | ⑤ 兵庫県 |
| 22 | 【伊賀】 | ① 京都府 | ② 奈良県 | ③ 三重県 | ④ 滋賀県 | ⑤ 兵庫県 |

問十一 傍線部8「国初の頃」とあるが、いつ頃のことか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は23。

- ① 神武初年
- ② 奈良朝初期
- ③ 江戸の初め
- ④ 徳川家綱執政の初め
- ⑤ 万治初年

問十二 この文章で、水害や天候不順などの最も根本的原因とされているのは何か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号を

マークせよ。解答欄は 24。

- ① 人心が悪くなったこと
- ② 政治に限界があつたこと
- ③ 政治が無策であつたこと
- ④ 山林の大木や大石をみだりにきりだしたこと
- ⑤ 自然の摂理に忠実でありすぎたこと





